

## 2 但馬地域における酒米新系統の試作

### ねらいと成果

1986年に但馬・丹波地域向け奨励品種に指定された「兵庫北錦」は、倒伏しにくい多収性品種であることから、作付面積は急増し、1993年まで毎年約1,200ha作付けされた。しかし、1993年の記録的な冷夏による不稔の発生や1994年の高温、干ばつ時の乳白米や死米の多発が、生産者側の評価を下げてしまった。また、高度精米を用いる特定名称酒の需要が増加する中で、心白の大きい「兵庫北錦」は高度精米に適していないため、酒造メーカーからの需要も減少してきた。このような情勢の中で、生産地からは耐冷性が強く、品質が安定し、高度精米にも適する新品種への要望が高まった。これに対応するため、1996年から但馬地域での現地選抜を強化し、有望系

統として「兵系酒65号」、「兵系酒66号」を選出した。

### 内容

1996年～1998年の3カ年、県酒米振興会、但馬地域の農業団体、農業改良普及センター及び県立北部農業技術センターの協力で、平坦地の豊岡市（標高1m）と高地の日高町（標高345m）に酒米育成系統生産力検定現地試験ほを設置し、現地選抜を開始した。1996年は19系統、97年は10系統、98年は8系統を供試した。98年からは有望な4系統を豊岡市、八鹿町、関宮町、山東町の4カ所で試作し、その収穫米を用いて酒造メーカー4社で精米や醸造試験を実施した。1999年からは、「兵系酒65号」、「兵系酒66号」の2系統に絞り込み、県の「酒米基盤強化事業」として、1999年は13haの現地試作を行い、酒造

メーカー5社で試験醸造を実施した。また、同時に灘酒研究会や県工業技術センター、県立北部農業技術センター加工流通部で、それぞれ、酒米の全国統一分析や小仕込み試験、タンパク質含量や粗脂肪などの成分分析を実施した。さらに1998年から岩手県農業研究センターに耐冷性検定ほ場での検定を依頼し、両有望系統とも「兵庫北錦」よりは明らかに強く、「兵系酒65号」は「五百万石」並み、「兵系酒66号」は「五百万石」並み～やや強いとの評価を得た。

1998年までの供試年は全ての場所で冷害による不稔の発生少なかったものの、1999年の関宮町や和田山町の試作ほで、「兵庫北錦」に若干の不稔が観察されたのに対し、供試両系統とも不稔の発生は見ら

れず、耐冷性検定の結果が現地でも裏付けられた。

この度の県北部向け酒米新系統の育成は、選抜過程から普及が予定される県北部の現地で行い、特に、稲の登熟期間が高温となり品質の変動が大きい条件下で、選抜できたことに意義がある。

#### 今後の方針

2000年も、「酒米基盤強化事業」により、現地20haの試作が行われており、酒造メーカーによる試験醸造が予定されている。今後は試験醸造の結果を踏まえ、1系統に絞り込み、「兵庫北錦」に替えて県北部に普及していく予定である。

池上 勝（中央農技・酒米試験地）

表 有望系統「兵系酒65号」、「兵系酒66号」の特性概要（1996～98年の豊岡市での平均値 移植5月14日）

品種・系統名	出穂期	稈長	倒伏	任病	収量	千粒重	心白発現率	乳白発現率	品質
兵系酒65号	7月26日	79cm	強	強	53.1kg/a	25.1g	67%	11%	特(下)-1(上)
兵系酒66号	7月26日	85cm	中	強	56.0kg/a	27.8g	62%	3%	1(上)
比)兵庫北錦	7月28日	81cm	強	中	51.5kg/a	30.3g	65%	25%	1(下)